

南部・松永合同開催 まちづくりシンポジウム 人づくり・未来づくり！

シンポジウムの流れ

1 事例発表

- (1) 泉学区 「泉学区ひまわりプロジェクト“耕作放棄地をお花畑に”」
～泉学区みんなで取り組んだ明日の地域づくり～
- (2) 本郷学区 「まちづくり計画に基づいて！」
～いつまでも安心して暮らせる本郷町をめざして～
- (3) 熊野学区 「熊野学区歴史文化保存事業」
熊野小学校 6 年生と取り組んだ歴史講談
“常國寺と一条山城” “鞆幕府と本能寺の変”
- (4) 藤江学区 「『フジパス』『イルミネーション』によるまちづくりと
タブレットの活用による会議の効率化」

2 パネルディスカッション

「事例発表を踏まえた今後の展望」について意見交換

2023 年 8 月 31 日（木）沼隈サンパルホールにて、まちづくりシンポジウムを開催しました。

そこでは、南部・松永管内 4 学区によるまちづくりに関する取組事例の発表や、各まちづくりについての意見交換を行いました。参加者 106 人が「人づくり・未来づくり！」のテーマに沿ったまちづくりのヒントを聞くことができました。

■事例発表

(1) 泉学区 「泉学区ひまわりプロジェクト“耕作放棄地をお花畑に”」

～泉学区みんなで取り組んだ明日の地域づくり～

(15 分)

発表者：泉学区まちづくり推進委員会 委員長 山岡英樹さん， 泉交流館 館長 中村みさ男さん

取組のきっかけは、ふくやま地域づくり塾への参加、その後泉学区でまちづくりミーティングを実施したこと。ミーティングで話し合いを重ねるうちに、耕作放棄地が増えたことによるイノシシの増加や野鳥の糞などの鳥獣被害という課題が顕在化され、共通認識として捉えることとなった。そして、草を刈るだけでなく、ひまわりを植えることで景観が良くなるというアイデアに至る。また、ひまわりは生育が比較的簡単という情報もあった。

「ひまわりプロジェクト」と題し 2022 年度からスタート、耕作放棄地 600 m²に種を蒔いた。参加者は子どもから大人まで 50 人。続く 2023 年度は 15,000 m²に 15,000 個の種を蒔き、参加者は 75 人に増加。

【苦労した点】

- ・用地確保…耕作放棄地は多くあるが、誰でもすぐに貸してくれるものではない
- ・準備段階…草を刈る、畝（うね）を作るなどの耕作準備や機械・人材の確保
- ・人が集まってくれるのかという不安…泉学区は日頃から要請をする参加形式でなく賛同者に集まってもらって事業を行っている ⇒「この指とまれ」方式

次世代への取組として、泉学区に住む子どもたちが、将来今日の事業を思い出したり、いったん学区外へ出て戻ってきたいという想いをもてるように進めている。



(2) 本郷学区「まちづくり計画に基づいて！」

～いつまでも安心して暮らせる本郷町をめざして～

(15分)

発表者：本郷学区まちづくり推進委員会 委員長 横山典好さん

まちづくり推進活動について、まちづくりミーティングにより代表制⇒推進委員全員による定例会へとあり方を変えた。またミーティングで「地域の団体がどのくらいあり、どんなことをしているのかわからない」「町内にどんな行事があるのかわからない」といった意見が出たので、各種団体の紹介を通信として出した。LINEの活用（委員会グループライン、定例会のお知らせ、交流館だより等の発信、自治連役員間の連絡調整、消防団活動の連絡、小学校PTAの連絡等）や、城山（大場山）登山道整備、草刈・富有柿の栽培・蘭草の栽培協力を行うための耕作放棄地の管理もまちづくり推進活動として行っている。



3 大事業の見直しを行った。①小学校運動会・町民大会の合同開催 ②夏祭り ③文化芸能祭（敬老会行事の組み入れ）。

また、文化財の保存についても取り組んでおり、「ひんよう踊り」「神楽」が広島県無形民俗文化財として指定されており、文化芸能祭・大祭・二宮神社にて奉納、今年、ひんよう踊りは、福山城築城記念に2回、福山ばら祭で1回発表する。

そして、①町民大会との合同運動会 ②蛍の夕べ、蛍の放流 ③「ひんよう」踊りの継承 ④敬老会への協力 ⑤町内探訪の校外活動の援助といった本郷小学校との連携を行っている。

(3) 熊野学区「熊野学区歴史文化保存事業」熊野小学校6年生と取り組んだ歴史講談 “常國寺と一乗山城”“鞆幕府と本能寺の変”

(15分)

発表者：熊野学区まちづくり推進委員会 委員長 志田原友逸さん，事務局 門田信行さん

取組のきっかけは、将来を見据えた住民主体のまちづくりとして、今ある地域資源をどう活かすかという話し合いの中からこの歴史文化保存事業は生まれた。

熊野学区の特徴は、豊かな自然・数多くの史跡などの地域資源が挙げられる。一方では、人口減少・少子高齢化により担い手の高齢化や担い手不足が挙げられる。

これまで熊野学区にある歴史文化資源を、歴史ガイドとしてイベントなどを通じて市内外へ情報を発信し、好評を得てきた。2021年5月、福山城築城400年記念「福山城400年博」で市民企画事業の募集があり、まちづくり推進委員会は歴史文化保存事業として応募・取組ができるか話し合いを重ねた。



そこで、①情報発信の方法を講談の手法ですれば、過去に例もなく、よりインパクトがあるのではないか ②事業の主体は熊野小学生の児童として実施すれば、未来を担っていく子どもたちが熊野町へより愛着をもってくれるのではないか ③更に、これを“単発で終わらせるのではなく、将来に残せる事業として実施すれば、未来を担っていく子どもたちが熊野町へより愛着をもってくれるのではないか”等の提案が挙げられた。この内容を基に市民企画事業へ応募、事業を実施することになった。

常國寺の協力を得る中で、熊野町の歴史文化を講談の手法で物語風に紹介するものとした。そして、2022年4月から学びが始まり、「熊野小学校との協議・連携」「台本作り」「講談師から

講談について学ぶ」「熊野小学校児童による歴史講談の実演・披露」を進めていった。講談の内容は“常國寺と一乗山城”“鞆幕府と本能寺の変”

取組の成果として、地域資源が持つ歴史ロマンの再認識と地域住民への歴史文化資源の浸透、子どもたちが発表することによる達成感の獲得と地元愛の醸成、新たなガイド話法による参加者の満足度の向上、2022年11月20日“全国藩校サミット福山大会”で児童による講談での常國寺歴史ガイドを行った。

今後の展望として、熊野小学校児童の講談による歴史ガイドで地元の活性化を図っていく。

(4) 藤江学区『フジパス』『イルミネーション』によるまちづくりと タブレットの活用による会議の効率化

(15分)

発表者：藤江交流館 館長 杉原嗣彦さん

まちづくり推進事業の2022年度テーマは、“コロナ禍で疲弊した住民を元気づけ、心に潤いを与える事業を中心に活動する”というもの。そのテーマから事業を整理した。

“今までの継続事業” “見直しが必要な事業”

“新たに始める事業” “必要とされ継続している事業”

藤江学区の特徴的な事業の紹介

■新しく始める事業活動 「イルミネーション in ふじえ」

テーマ：コロナで疲弊した地域住民の心を癒し、事業へ

参画することで準備過程や成果をみんなで楽しむ！

開催期間：2022年12月10日～25日（16日間） 場所：藤江交流館及び横グラウンド

点灯時間：18：00～21：00（3時間） 動員数：2,001人

実施：藤江学区まちづくり推進委員会、みろくの里、藤江交流館 ※3者コラボ開催 地域参加型イベント

■必要とされ継続している事業活動 「資源ごみ回収事業」

目的：「もったいない精神」から発し、福山市の資源回収制度を活用して20年以上継続して行っている事業
3つの回収方法

①町内28ごみステーションを活用して、本部で回収し倉庫へストックする。

②交流館の事務所が開いている時間帯に、随時受入して倉庫にストックする。

「ふじパス」活用・・・藤江独自の工夫、事前に交流館で「ふじパス」の登録をして、シール用台紙の交付を受ける。1回の古紙持ち込みに対して1枚のシールを配布。シール3枚でBOXティッシュ1箱と交換する。

③年6回奇数月第2日曜日に、ボランティア全員による地域回収と業者引き渡し作業。

■事業活動以外の組織運営に関する活動 「まちづくり組織のデジタル化」

ICT機器を使った会議運営…機材：ノートパソコン1台、タブレット10台

SNSを活用して情報発信…福山市のHP（藤江交流館ページ）へ誘導（QRコード記載）、

公式LINEによる情報提供（2023年度開始予定）、LINEによる確認と連絡

※これらの事業は、藤江学区の現状を打開するため、若い世代を巻き込み、町民全員が今後も取組に関われる事を基本に考えている。



■パネルディスカッション

<u>コーディネーター</u>	福山市立大学都市経営学部	学部長	渡邊一成さん
<u>パネリスト</u>	泉学区まちづくり推進委員会	委員長	山岡英樹さん
	本郷学区まちづくり推進委員会	委員長	横山典好さん

熊野学区まちづくり推進委員会 委員長 志田原友逸さん
 熊野学区まちづくり推進委員会 事務局次長 門田信行さん
 藤江学区まちづくり推進委員会 委員長 増田博さん
 福山市まちづくりサポートセンター センター長 中尾圭さん



コーディネーターから、事例発表での取組状況を踏まえた将来展望について質問がありました。

パネリストからは、「“地域の交流”をどうしていくか、若い人が企画立案したものに、自分たちが乗ることで交流が増えると思っている」「“防災”では、被害の経験・記憶は風化するが、今後も持続し

て考えてもらうために取り組む」「各委員会・組織が機能し存続するにはどうしたら良いか。ミーティングで関わった女性を含めた若い方々が2,3年たっても事業参加している現状がある。世代のバトンタッチや協力できることが重要」「小中学生の参加や地域の協力を得ながら、歴史あるものが続いていくよう願って協力の依頼をしていく」「今後の講談の指導方法、小学校の理解協力が課題。今後は一部ビジネス体験というものも視野に入れる」「地域を離れる子どもたちが多く、子どもたちとの交流・指導・関わりのなかで、生き生きとした元気なおじいちゃんおばあちゃんの暮らすまちづくりをしていきたい」といった意見がありました。

また、「何もしないのでは、後退はあっても前進はしない。まず何でもいいから目標をもって活動していくと達成感・充実感も得られる。活気ある組織作りができると思っている」といった意見も。

会場からは、「各学区の話に共通しているのは、“高齢化”と“若い方がいるのだからどういうふうに関わりをもっていくか”ということ」という意見が出て、意見交流の場となりました。

最後にコーディネーターから、本日のシンポジウムを踏まえて、①地域の強みを活かして元気にする ②話し合って決めること ③デジタルを上手く使うこと が大事というアドバイスがあり、パネルディスカッションは幕を閉じました。



【アンケートより】

参加で得られたこと

- ・他の地区の現状，各地域の取組状況等 ・これからの地域づくりのヒントをいただいた
- ・LINE 活用で若い人に連絡等，情報発信
- ・地域に適した事業の選択と継続するための方策の必要性をしっかり確立すること
- ・目標を立て積極的な姿勢が必要だと改めて認識することができた

意見・感想

- ・若い世代の巻き込み方の情報が得たい
- ・デジタル化の必要性を改めて感じた。高齢者だからと臆することなくチャレンジ！地域活性化に活かしたら良いと思う

【問合せ先】

南部地域振興課

電話：084-980-7713

FAX：084-987-2382

メールアドレス：nanbu-chiikishinkou

@city.fukuyama.hiroshima.jp

【問合せ先】

松永地域振興課

電話：084-934-5443

FAX：084-934-8251

メールアドレス：matsunaga-chiikishinkou

@city.fukuyama.hiroshima.jp